

## 京都府の気候変動（真夏日他）これから（高程度の温室効果ガスの排出が続く場合）

気象庁地球温暖化予測情報第9巻に基づき、1980～1999年を「現在気候」、2076～2095年を「将来気候」とし20世紀末から21世紀末の気候の変化を予測しました。

- 猛暑日（日最高気温が35 以上の日）となるような極端に暑い日の年間日数は、現在と比べて35日程度増加。
- 真夏日、夏日の日数も現在と比べて55日以上増加し、**熱帯夜の日数も55日程度増加**。（冬日は減少） **熱中症リスクの増大**

予測は、20世紀末（1980～1999年）の気候と比べた、21世紀末（2076～2095年）の気候。  
現在（1981～2010年観測値の平均値）の猛暑日の年間日数は、京都で15.4日。

